



## 「ウエディングケーキ」の由来は？



披露宴での定番の演出といえば、新郎新婦の初めての共同作業「ウエディングケーキ入刀」ですよね？一昔前は生クリームデコレーションを見立てた背の高いウエディングケーキが主流でしたが、今はほとんどが「生ケーキ」です。

そんなウエディングケーキの起源をみなさんはご存じでしょうか？

それは昔々、古代ギリシャ時代に遡ります。花嫁の頭上に、小麦粉で作られた堅いビスケットを砕いてばら撒いた事が始まりとされています。ビスケットの原料である小麦は、当時の主食であり、収穫や子宝に恵まれるようにと、人々はビスケットのかけらを拾い集めて食べ、二人の幸せを祈っていました。それから、砂糖菓子で作られたシュガーケーキが主流となり、後に背の高い3段ケーキへと形を変えていきました。3段ケーキには一段一段に意味があり、1段目は出席した人へのおすそ分け、2段目は当日欠席した人へのおすそ分け、3段目は1年目の結婚記念日に食べる慣わしがありました。

現在は見た目にも、味にもこだわりを持った新郎新婦さんが多く、結婚式に出席される機会があれば是非、ウエディングケーキに注目してみてください♪

## 昔は白色が主流だった?! 喪服の由来

現在は黒色を着用することが一般的な喪服ですが、初めから黒色だったのではなく、昔は白色が主流でした。白から黒へ変化したのは明治42年の伊藤博文の国葬の際、黒い礼服の着用が義務付けられ、第2次世界大戦後には民間の葬儀でも黒い喪服を着用するようになりました。黒色が主流になった理由としては、西洋の葬礼に倣って導入されたという説や、戦死した人を弔う葬儀の際に、白色では汚れが目立ちやすいため黒になったという説があります。

2012年12月27日、歌舞伎俳優の中村勘三郎さんのご葬儀の際、妻の好江さんの喪服は白色でした。昔から、未亡人が白い喪服を着る場合は「再婚をしませんよ」という意味がありました。しかし好江さんの場合は、勘三郎さんがプロポーズした際に好江さんの父、中村芝翫さんから「娘は何ものにも染まっていない白だから、あなたの好きな色に染めてください」と言われたそうで、それが白い喪服を着た理由ではないかと言われています。

今でも地方によっては白い喪服を着る所もあるそうですよ！！

